

**美浜町での「地域活力創出事業」第1回の活動を10月27日（日）に実施。
地域資源の見学や体験、移住された方との交流を深めました。**



外からの目線で美浜町の特徴や魅力、他とは違う「キラリ」と光るところを探す

「あいちの助っ人 地域活力づくり隊」の美浜町担当メンバーは、大学生、社会人を含めた15名。愛知県内外からの参加となりました。美浜町では、町での暮らしの魅力を積極的に発信しており、移住定住者を増やすための各種活動を行っています。今回の「あいちの助っ人 地域活力づくり隊」の活動では、外からの目線で、町の特徴や魅力、「他とは違う『キラリ』と光るところ」を探すことを目的に、まずは美浜町を楽しむことからスタートしました。

10月27日（日）に、美浜町において第一回の活動が実施

はじめに訪れたのは、美浜町のシンボリック的存在である「野間埼灯台」。大正10（1921）年3月10日に点灯された夕陽がきれいに見えるスポットで、恋人たちの願掛けスポットとしても人気があります。

通常は外からしか見ることはできませんが、今回は特別に、現代版灯台守として活動されている方の案内で、灯台の上部に行くことができました。灯台の役割や、特徴をお聞きしながら、灯台内部の階段を上った先には、絶景が広がっていました。

灯台見学の待ち時間は、海岸での自由時間や、新たな地域産品として注目されている果実ジュースを試飲。美浜らしさを楽しむことができました。



愛知県美浜少年自然の家にて交流&ワークショップ体験

野間埼灯台に続いて「あいちの助っ人 地域活力づくり隊」のメンバーが向かったのは、海浜型社会教育施設「愛知県美浜少年自然の家」のロマンの広場。500名が利用可能なエリアで、たき火を囲みながらランチをいただきました。メインは、こちらも新名物としてPRが始まっている「ライスバーガー」。知多半島の特産物を活かした商品で、米や、つけあわせの野菜などが美浜町産です。ランチを食べた後は、地域の方から移住定住した理由や住んでみて感じた美浜町の魅力についてお話しいただきました。「人との距離がちょうど良く、仲良くなりやすい」「自然と街が共存しているので、とても暮らしやすい」「新たな移住者が多く、若いコミュニティが生まれている」といった内容を、興味深く聞いていました。



5つのワークショップで「美浜町らしさ」を体験

ランチに続いては、美浜町らしさが表れている5つのワークショップを体験しました。美浜町の海岸でとれたものをつかったワークショップでは、シーグラスをつかった「シーグラスクラフト」、石を使う「ペーパーウエイト作り」、流木をつかった「海からの贈り物 流木アート」を実施。それぞれの個性が存分に発揮され、メンバーは悩みながらも楽しんだ様子です。あらゆる物が地域資源になり得ることを実感することができました。



屋外ならでの体験として、虫除けグッズや燻製をつくるワークショップにも参加しました。好きな木材チップを選んでチーズや魚などを燻製に。打ち解けたメンバー同士で異なるチップを選んでの食べ比べなどをしながら、大いに盛り上がりました。会場に設置されたミニ野間埼灯台は、その特徴である白い灯台を好きなように塗って、みんなで一つのものを完成させる仕掛け。大人も子どもも一生懸命に自分の思いを表現していました。



美浜町の方々とお話しする時間も多く、楽しみながら美浜町の魅力を感じた「あいちの助っ人地域活力づくり隊」のメンバーたち。「まずは楽しんでください！」という地域の方の言葉通り、笑顔あふれる1日となりました。